

## (1) 緊急性

緊急的な医療の提供等が、特に生命や予後に影響を及ぼすもの

### <例>

- 重篤
  - 心肺機能停止
  - バイタルサインの急速な悪化
- 致死的な疾患
  - 脳疾患
  - 心疾患
- 重症度・緊急度が高い症状・主訴
  - 意識障害
  - 外傷(事故等現場の状況を含む)
  - 熱傷
  - 中毒
  - 胸痛
  - 呼吸困難
  - 消化管出血
  - 腹痛

## (2) 特殊性(小児、妊産婦等)

特殊性に鑑み特に整理すべき項目

<例>

### ○ 診療科別

- ・ 小児科
- ・ 産婦人科

※ 傷病者が小児や妊産婦であっても、意識障害等、当該科での救急対応が困難なものもあるのではないかと(1)の項目での重症度・緊急度「高」のリストを優先させる等の設定が必要ではないか)

## (3) 地域性(地域で必要な項目(搬送に時間を要している傷病等))

### <例>

- 時間を要している事例があった症状・主訴
  - ・ 開放骨折
  - ・ 吐血・下血
  
- 傷病者背景
  - ・ 透析
  - ・ 精神疾患
  - ・ 急性アルコール中毒
  - ・ 未受診の妊婦

※ 該当する救急搬送の件数等を調査分析し、適切に現状を把握するために設定する項目もあるのではないか。

選定ルールの  
策定

傷病者の状況確認・  
伝達ルールの策定

## ○ 傷病者の状況確認・伝達ルールの策定

### (1) 確認ルールの策定

- ・ 医療機関を選定する上で必要な、傷病者の観察事項及び観察方法に関するルールを策定

※ 特に、緊急性が高く、現場で詳細な観察をして時間を浪費するべきではない、迅速に搬送する必要がある傷病者について、観察する事項及びその方法についてルールを策定してはどうか

### (2) 伝達ルールの策定

- ・ 医療機関に搬送について照会する際に伝達するルールを策定

※ 特に、緊急性が高い場合に、医療機関に照会する際、まず伝えるべき事項についてルールを策定してはどうか